

# メキシコの遺伝子組み換えトウモロコシ禁止

この電子書籍では、メキシコの GMO 禁止について検証し、他の国々で見られるパターンを反映し、国民の反対を無視するために「科学に従う」というレトリックを頻繁に使用する、GMO を段階的に導入するという戦略的アプローチの証拠を明らかにしています。

2024年12月16日に印刷されました



GMOディベート  
優生学に対する批判的な視点

## 目次 (TOC)

1. 🌽 メキシコの遺伝子組み換え作物禁止
  - 1.1. 🌽 汚職と戦略的欺瞞のケーススタディ
2. 現在の禁止措置：戦略的な欺瞞？
3. 欺瞞の世界的なパターン
4. 結論





教室にいるイグナシオ・チャペラ博士。


# 不道德な遺伝子組み換えトウモロコシ 🌽 チャペラ事件

## 章 1.


# メキシコの遺伝子組み換え作物禁止

## 章 1.1.

### 汚職と戦略的欺瞞のケーススタディ

2020年12月、メキシコ大統領 [Andrés Manuel López Obrador](#) は、2024年までに遺伝子組み換えトウモロコシを禁止する法令に署名し、 米国との重大な貿易紛争を引き起こした。しかし、メキシコのGMO政策と歴史を詳しく調べると、腐敗と戦略的策路の複雑な網が明らかになり、この禁止の背後にある真の動機に疑問が生じている。

現在の状況を理解するには、まず 2000 年代初頭のメキシコの教授であり GMO 科学者である [Ignacio Chapela](#) 博士の事件を振り返る必要があります。チャペラ事件は、メキシコの GMO 政策の明らかな転換の重要な背景を示しています。

2001 年、Chapela博士 と彼の研究チームは、遺伝子組み換え  トウモロコシがメキシコ原産のトウモロコシを汚染していることを示す調査結果を Nature で発表しました。その後、Chapela博士の研究の信用を失墜させようとする脅迫や威嚇、試みが組織的に展開されました。

Chapela博士の活動に対するメキシコ政府の反応は、同国における GMO 導入の強制に対する根深い決意を明らかにしています。

[GMWatch.org](#) の報告によると:

公式のバイオセーフティ委員は彼を空のオフィスルームに連れて行き、そこで彼は本当に深刻な問題を引き起こしており、その代償を払うことになるだろうと告げた。遺伝子組み換え作物の開発は🇲🇽メキシコや他の地域で起ころうとしていることだった。

Chapela博士:それで、今リボルバーを取り出して私を殺すとか、何が起きてるんですか?


Chapela博士は、モンサント社とデュポン社の代表者を含む秘密の科学チームに加わり、GMOについて世界に知らせよう提案されました。彼が拒否すると、脅迫はエスカレートしました。

彼は私の家族のことを持ち出し、Chapela博士のことを思い出します。彼は私の家族を知っていること、そして彼が私の家族にアクセスできる方法について言及します。それはとても安っぽいことでした。私は怖かったです。私は威圧されていると感じ、確かに脅かされていると感じました。

この事件は、🇲🇽メキシコ当局が遺伝子組み換え作物に批判的な研究を抑圧し、その導入を強制するためにどれほどのことをしようとしていたかを示している。

## 現在の禁止措置：戦略的な欺瞞？

こうした汚職や遺伝子組み換え作物を支持する強引な戦術の歴史を考えると、メキシコの現在の食用遺伝子組み換えトウモロコシの禁止は精査する必要がある。いくつかの要因から、この禁止は最終的に遺伝子組み換え作物をより広範囲に導入するための長期戦略の一部である可能性が示唆される。

▶ **選択的禁止:**メキシコは人間の食用としての遺伝子組み換えトウモロコシを禁止していますが、動物への餌として遺伝子組み換えトウモロコシの使用は続けています。この市場はトウモロコシ消費のかなりの部分を占めており、メキシコが米国から輸入するトウモロコシの79%は動物飼料用の遺伝子組み換えトウモロコシです。

▶ **科学のレトリックに従う：**米国の非難に対する公式の弁明で、メキシコは科学に従っていると主張している。この表現は、他の国々で見られる戦略を反映しており、そこでは遺伝子組み換え作物はまず家畜の飼料として導入され、10年間テストされ、その後科学的に安全であることが証明されると、多くの場合、**新ゲノム技術 (NGT)、精密育種、またはGMO 2.0**などの新しい名前で人間の消費に承認されます。

▶ **歴史的背景:** Chapela博士 に対する脅迫と威嚇は、現在の GMO 禁止のわずか 10 年前まで続きました。メキシコで GMO 導入を強制する最近の熱心な取り組みの歴史は、現在の禁止の誠実さについて疑問を投げかけています。

▶ **一貫性の欠如:**懸念が本当に GMO の安全性や環境への影響に関するものである場合、人間の消費用 GMO を禁止しながら動物の飼料用 GMO を許可するという矛盾は、論理的な一貫性を欠いています。

## 欺瞞の世界的なパターン


✕ キシコのアプローチは、ヨーロッパやアフリカの他の国々で採用されている戦略と驚くほど類似しています。そのパターンは、通常、次のように展開されます。

- ▶ 動物への GMO の供給を継続しながら、人間の消費に対する GMO の禁止を導入することで、世論と道德の懸念に応えます。
- ▶ 10年にわたるテストと順応の期間、人類はすでに遺伝子組み換え作物を餌として与えられた動物を通じて間接的に遺伝子組み換え作物に汚染された食品を消費しています。
- ▶ 科学は新しいタイプの遺伝子組み換え作物が安全であると宣言し、人々は科学に従うよう圧力をかけられています。

遺伝子組み換え作物に対する国民の反対が強かった🇬🇧英国では、新たな遺伝子組み換え作物（精密飼育）の規制緩和が試みられる前から、国内の肉の80%がすでに遺伝子組み換え作物の飼料に汚染されていたことが明らかになった。英国政府は現在、国民協議への回答の85%が規制緩和に反対であったにもかかわらず、規制緩和に向けた動きを科学に従ったものと位置付けている。

🇮🇹イタリアはもう一つの顕著な例です。イタリアは国民の深い感情に基づいて GMO を禁止しましたが、GMO 動物飼料と GMO 肥料を広範囲に使用し、ロンバルディア州やポー＝ヴェネト州などの地域の飲料水の表面が GMO 肥料でひどく汚染されました。これは戦略的な意図を示しています。つまり、イタリアは GMO に対する道德的配慮を公に受け入れながら、数十年にわたって密かに動物に GMO を大量に与えてきたのです。

## 結論

× キシコの遺伝子組み換え作物禁止は、Chapela博士との歴史や、動物飼料用の遺伝子組み換えトウモロコシを許可するという一貫性のない政策の文脈で検討すると、 メキシコでより広範囲に遺伝子組み換え作物を導入するという戦略的長期計画の一部であるように思われます。安全性や環境への影響に関する懸念が本当にあるのなら、人間の消費用としては遺伝子組み換え作物を禁止しながら動物飼料用としては許可するという矛盾は、論理的な一貫性を欠いています。

メキシコが米国の非難に対する公式の弁護で用いた「科学に従う」というレトリックは、他の国々で見られる戦略がここでも機能していることを明確に示している。この言葉遣いは、他の国で見られるアプローチを反映しており、GMOはまず家畜の飼料として導入され、10年間テストされ、科学的に安全であることが証明されると、多くの場合、新ゲノム技術(NGT)、精密育種、またはGMO 2.0などの新しい名前で人間の消費に承認されます。

複数の国で見られるこの欺瞞のパターンは、農業政策決定の誠実性と、GMO技術への莫大な経済的利益によって引き起こされる腐敗の可能性について深刻な懸念を引き起こしています。

以下は[GMWatch.org](https://www.gmwatch.org)のChapela Affairの抜粋です:



「私は決して殉教者になりたくありませんが、これが私たちのGMO研究の信用を傷つけるための非常によく協調され、調整され、支払われたキャンペーンであることを理解することは避けられません。」 **イグナシオ・チャペラ博士**



彼[政府関係者]は、私の家族を知っていること、および彼が私の家族にアクセスする方法について言及しています。とても安かったです。私は怖がっていた。私は威圧感を感じ、確かに脅威を感じました。

公式のバイオセーフティコミッショナーは彼を誰もいないオフィスルームに連れて行き、そこで彼は「本当に深刻な問題を引き起こしている、彼が支払うつもりだ」と言われました。GMO作物の開発は、メキシコや他の場所で起こる予定だった。

チャペラ博士は答えた：「それで、あなたは今リボルバーを取り出して私か何かを殺すつもりですか、何が起きているのですか?」。その後、バイオセーフティ担当者はチャペラ博士に取引を申し出ました。彼は、GMOについて世界に情報を提供するトップ科学者の秘密科学チームの一員になることができました。彼はカリフォルニア州バハでチームメンバーに会うことができました。モンサントの2人の科学者とデュポンの2人の科学者。

チャペラ博士はこれを拒否しました。「それは私の仕事のやり方ではないし、問題は私ではない。問題は遺伝子組み換え作物だ」。その後、事態は非常に邪悪な方向に進みました。「彼は私の家族を育ててくれました」とチャペラ博士は思い返します。「彼は私の家族を知っていることや、私の家族にアクセスする方法について言及しています。とても安かったです。私は怖がっていた。私は脅迫されていると感じましたし、確かに脅迫されていると感じました。彼が本気で言ったかどうかはわかりませんが、「なぜ私がここにいる、こんなことを

聞いていなければならないのに、立ち去るべきだ」と感じるほどに非常に不快でした。

農務次官から手紙を受け取ったチャペラ博士に対する脅迫は激しさを増し、政府は彼のGMO研究から「解き放たれる可能性のある結果」について「深刻な懸念」を持っていると述べた。さらに、政府は、「この出版物の内容が引き起こす可能性のある農業または経済全般への損害を回復するために必要と思われる措置を講じる」。

チャペラ博士は、農業省自体が「利益相反に満ちている」ため、このアプローチは驚くべきことではないと考えています。デュポン、シンジェンタ、モンサントのスポークスマンとして働いているだけです。

わずか2か月後、Chapela博士のチームは、NatureでGMO研究を発表しました。

## (2009) 🌽 不道德なトウモロコシ - チャペラ事件の説明

これは、メキシコのトウモロコシのスキャンダルと、モンサントとその支持者による、バークレーの研究者であるデビッド・クイストとイグナシオ・チャペラの信用を傷つけるためのキャンペーンの、はるかに優れた説明です。

ソース: [GMWatch.org](https://gmwatch.org) (PDFバックアップ)

2024年12月16日に印刷されました



GMOディベート  
優生学に対する批判的な視点

© 2024 Philosophical Ventures Inc.